



山形大事業、最優秀に

「インターン」1年生向け評価

文科省

山形大が県内企業と連携して取り組むインターンシップ事業が、本年度創設された文部科学省表彰の最優秀賞に輝き、20日に開かれた同大定例会見で報告されている点が全国的に珍しく、キャリア意識を高め、受け入れ先を中小企業として地元への理解を深める試みが高い評価を得た。

全国最優秀賞を報告する(左から)松坂暢浩准教授、佐藤啓社長、松岡友路社長、山形市・山形大小白川キャンパス

文科省はインターンシップのさらなる充実を図るため、他の大学や企業のモデルとなる取り組みを周知する制度を今年2月に設けた。全国から約300のプログラムが登録され、この中から最優秀賞1校、審査員特別賞1校、優秀賞6校を選出した。

山形大は県中小企業家同友会と連携し、2014年度に1年生対象のインターンシップ事業を開始した。本県を知ることを目的とした選択必修科目として実施し、早期の就業体験を通じ

たキャリア意識の醸成に努めている。14年度の受講者は今年3月に卒業し、当時の受け入れ先企業に就職した学生もいるなど成果が表れているという。

会見には事業を担当する同大の松坂暢浩准教授をはじめ、同友会理事の佐藤啓、サニックス社長、松岡友路、アイン企画社長が出席した。松坂准教授は「山形大の使命は地域創生。1年生のうちから山形の良さを知ってもらうことで若者の定着に貢献していきたい」と述べた。佐藤社長は「学生と接することで自社の魅力を再確認する社員もいる。地域の魅力を発見する学生が増えることが地域活性化につながる」と話した。

(稲村裕介)

当社でも大きく関わっている、山形大学と中小企業家同友会連携の「低学年インターンシッププログラム」が文部科学省表彰の最優秀賞を受賞しました。

当社も4年前からこの事業に参加しており、中小企業家同友会でも佐藤社長が中心となって取り組みの輪を広げて参りました。今回の受賞は当社にとっても大変名誉な事です。